

令和7年度
教育委員会活動の点検・評価報告書

与論町教育委員会

令和8年4月

I 点検・評価の概要

1. はじめに

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、住民に対して公表するよう義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられた。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による調査活動と、教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す4区分により達成度の評価を行った。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

(複数評価の場合、評価の欄は小数点以下第2位を四捨五入した数値で記載。)

3. 与論町教育委員会の取り組み方針

これまでは、教育委員会関係者と子ども園や各学校管理職の自己評価・意見を集約したものであったが、平成28年度より教育委員会の活性化を項目に入れ、また、教育委員による自己点検、自己評価を加え評価項目は4段階での数値評価とし実施した。

その結果を、教育行政評価委員の意見を集約したものを添えて与論町議会に報告するものです。

(1) 教育委員会の活性化の推進では、評価の観点を「(1)教育委員会の会議の運営」「(2)委員の研修等」「(3)委員の活動等」「(4)その他」の4項目について点検評価を行った。
点検評価は、教育長と委員3名の自己評価を基に行った。

(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進では、評価の観点を「(1)道徳教育の充実」「(2)生徒指導の充実」「(3)人権同和教育の充実」「(4)体験活動の充実」「(5)子ども読書活動の推進」「(6)文化活動の推進」「(7)食育の推進」「(8)体力・運動能力の向上」「(9)健康・安全教育の充実」の9項目について、点検評価を行った。

(3) 社会の変化に対応し、自立する力を育む教育の推進では、評価の観点を「(1)確かな学力の定着(学力向上)」「(2)特別支援教育の推進」「(3)キャリア教育の推進」「(4)郷土・伝統文化教育の推進」「(5)海洋教育の推進」「(6)幼児教育の充実」「(7)社会の変化に対応した教育の推進」の7項目について点検評価を行った。

(4) 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進では、評価の観点を「(1)開かれた学校づくりの推進」「(2)学校運営の充実」「(3)教職員の資質向上」「(4)安全・安心な学校づくり」「(5)教育環境の整備・充実」「(6)特色ある学校づくりの推進」「(7)与論高等学校との連携の充実」の7項目について点検評価をおこなった。

(5) 地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進では、評価の観点を「(1)地域ぐるみでの子どもの育成」「(2)家庭及び地域の教育力の向上」「(3)家庭教育支援の充実」「(4)特色ある教育」の推進(5)「土・日の有効活用」の基本方針の5項目について点検評価を行った。

(6) 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興では、評価の観点を「(1)生涯学習の推進」「(2)生涯スポーツの推進」「(3)スポーツアイランド構想の推進」「(4)文化芸術活動の推進」「(5)文化財の調査・保存・活用」の5項目について年間行事、各種協議会開催内容、文化活動、スポーツ大会開催状況やそれらの資料等をもとに評価と意見をまとめた。

教育行政評価会議委員

役 職 等	氏 名
与論小学校PTA会長	麓 誘市郎
茶花小学校PTA会長	村上 由季
那間小学校PTA会長	涉 裕則
与論中学校PTA会長	坂元 守

II 点検・評価結果

(4段階評価)

重点施策	評価の観点	成果・課題等	評価
1 教育委員会の 活性化の 推進	(1) 教育委員会の 会議の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第一水曜日を定例会実施日とすることで、スケジュール調整が容易になり、委員の出席率も高かった。日程変更や臨時会の開催について、メールやラインで日程調整がスムーズに行われた。 ・資料が事前に配布され、予め内容を把握できたので、質問が的確にできた。ペーパーレスにも繋がっている。 ・議事録や説明資料が分かりやすくまとめられており、効率の良い会議運営となった。 ・行事予定が示されることで、委員として出席すべき行事や興味のある活動を把握することができた。 ・各委員の活動報告や行事の感想を通して、保護者が抱える悩みや、委員それぞれが感じる課題を共有することができた。 ・専門的な内容の議題について、担当職員から資料に沿った説明があり分かりやすかった。 ・発言しやすい雰囲気の中、活発に意見が交わされた。 	3.8
	(2) 委員の研修等	<ul style="list-style-type: none"> ・島外研修として、鹿児島と郡内の研修に参加することができた。 ・南さつま市で開催された学校運営協議会のシンポジウムに参加し、学校と地域の連携について学ぶことができた。地域への愛着と貢献意識を高める教育による人材育成の発表は参考になった。金峰学園では、小中一貫教育の良さや校舎の特徴が参考になった。学校運営協議会が、地域と学校が密接に連携できる制度であることを、地域向け研修会や講話などを通じて発信・共有してはどうか。 ・郡内の教育委員研修会・情報交換会では、地域の特色を活かした教育や好事例の他、活動に必要な講師等の人材確保、高齢化などの問題も知ることができた。他地区の活動や講演、委員同士の意見交換ができ大変参考になった。 ・委員それぞれが携わる分野の講演会や研修会等について情報提供することで、多様な研修機会を得られた。 	3.4

重点施策	評価の観点	成果・課題等	評価
1 教育委員会の 活性化の 推進	(3) 委員の活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や講演会等に参加し、内容を定例会やメール等で情報共有することができた。それぞれの活動や立場から得られた情報を提供できた。 ・年間を通して学校行事に参加でき、子どもたちや先生方の頑張りを感ずることができた。 ・先生方に積極的に声掛けをした。 ・委員同士で意見交換する場を設け、お互いの考えを理解することができた。 ・学校訪問で、学力向上に向けた学校側の新たな取り組みや、多くの教室で子どもたちの質問や発表の様子を見ることができた。 ・地域行事の場で、親子だけではなく、行事に協力している地域の方が、ふれあいを楽しんでいる姿を見ることができ、地域内や世代間の交流の大切さを感じた。 ・学校行事だけではなく、各団体が主催する行事・イベント等に参加することで、地域との繋がりが再認識できた。 	3.5
	(4) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの学校行事や地域活動などが、先生方に過度な負担になっていないか、調査等が必要だと感じる。こちら側ばかりの要望になっていないか、先生方が意見を言いやすい環境であったかどうか評価を求めたい。 ・行事を継続するための負担軽減策、内容や活動単位によっては、まとめられる行事がないか、検討する必要がある。 ・行事によっては人員不足が生じており、人材育成の観点からも、学生ボランティアの活用を進めてはどうか。 ・学校と保護者と地域を繋ぐ役割として、それぞれの意見をしっかり聞くように努めてはいるが、状況把握だけになっていることもある。 ・委員同士の負担にならない範囲で、意見交換の場をつくっていききたい。 ・児童発達支援センターの訪問も検討していただきたい。 	

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
2 豊かな心と健やかな体を育む教育	(1) 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各校で「心の教育の日」を設定し、全クラスで道徳の授業参観を行うよう指導するなど、道徳意識の高揚に努めた。 ・各学校で道徳の時間には、子供同士の交流の場が設けられ、「考え、議論する道徳」として確立しつつある。 ・道徳の全体計画の作成について指導しているが、各教科と関連した別葉の作成をしていない学校もあり、作成を指導した。どの教員も内容の充実が図れるように今後も指導していきたい。 	3.1
	(2) 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校において年間5回以上のいじめアンケートを実施し、積極的にいじめを認知・指導するよう指示している。また、不登校や問題行動の状況について、定例教育委員会で情報を共有し、今後の指導の在り方について協議している。 ・町単独予算でスクールソーシャルワーカー2名の業務委託を継続し、学校からの要請により家庭訪問や個別面談等を実施し、児童生徒・家庭を支援した。 ・生徒指導提要の改訂を踏まえ、各学校のいじめ防止基本方針の見直し・改善に取り組んだ。また、生徒指導と学習指導の一体化を図れるよう、職員研修等で積極的に指導し、発達支持的生徒指導の体制を進めている。 ・不登校やトラブルなどあった場合、学校と連携して様々な手立てをして事態の解決や改善に努めた。 	3.5
	(3) 人権同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の経営グランドデザインの上位に「人権尊重の精神」に係る文言が入り計画的に実践に努める姿勢が見られる。人権教育研修資料「なくそう差別 築こう明るい社会」や人権教育指導資料「仲間づくり」等の活用について啓発した。また、人権に係る職員研修を年3回以上位置付けるよう各校を指導した。 ・「人権教育指導者研修会」を町教委主催で開催し、各学校の人権教育の取組を確認したり、新たな取組を紹介したりする等した。 	3.0
	(4) 体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の宿泊学習は、今年度も宿泊を伴わない「体験学習」としたが、各学校では様々な自然体験学習が計画され、町教委もバスによる送迎を行うなどサポートに努めた。 ・海洋教育科「ゆんぬ学」における様々な体験活動として、サンゴの観察、環境学習、くらしを守る職場訪問、伝統・文化施設訪問、サトウキビ・じゃがいも栽培、農家訪問、黒糖作りなどの食に関する体験などが各学校で円滑に実施されるよう、地域人材の紹介やバスによる送迎を積極的に行った。 	4.0
	(5) 子ども読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も全校に学校図書館司書・司書補助員を配置できた。 ・司書教諭・学校司書合同研修会を開催し、それぞれの職務を確認することができた。各小・中学校では、学校司書の尽力に支えられて読書活動が非常に充実している。 ・与論中学校ではテラスプロジェクトによる図書館リニューアルが完成し、読書や図書館の利用が増加することが期待できる。 ・県の弘済会からの助成金を那間小学校と与論中学校につなぎ、蔵書の充実がなされた。 	3.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
2 豊かな心と健やかな体を育む教育	(6) 文化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も小・中・高音楽発表会を開催することができた。 ・ヨロン・おきなわ音楽交流祭を実施することで、各学校の演奏レベルの向上が図られるとともに、他校・団体の演奏・演技を直に感じることができた。 ・図画作品審査会では、こども園から中学校までの他校種の職員が参加し、技法指導や鑑賞指導の力量形成を図ることができた。 ・書き初め大会に多くの参加があり、後日、優秀作品を役場に展示したり、教育委員会だよりに掲載したりした。 ・飛び入りで文化鑑賞・体験なども学校に提供し、普段の学習活動では得られない体験を子供たちが経験できた。 	4.0
	(7) 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で「早寝、早起き、朝ごはん」が推進されており、「弁当の日」についても、各学校の創意工夫により実践が継続されている。 ・食育支援事業として、食育支援員を招いた「食に関する授業」を実施することができた。(講師:JA青年部・女性部、与論町漁業協同組合ほか) ・毎月1回「ユンヌマサムヌの日」を実施し、地産地消の推進と郷土料理の積極的な導入の視点から給食を充実させた。 ・ふるさと納税を活用してマンゴーや与論牛、海産物などを学校給食に取り入れることで、地場産物に対する興味や理解を増進することができた。また、特産品の給食提供日に学校へ生産者が赴き、給食時間を使って講話を行った。 	3.4
	(8) 体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校陸上記録会に企画段階から関わり、前日・当日の運営を積極的にサポートすることができた。教育委員会の職員がいろいろな係を分担し、学校負担も減らしている。 ・各小・中学校が「たくましい“かごしまっ子”育成推進プラン」を作成することで、各校で運動好きな児童生徒の育成のための取組が計画的に推進された。 ・サッカー部、卓球部、野球部、女子バレー部では地域部活動として指導の充実が図られ、各種大会において好成績を収めていた。 	3.2
	(9) 健康・安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の医療機関と連携し学校検診及び就学前健診を行い、再検査等が必要な児童生徒について適切な受診指導を行った。 ・健康・安全教育に関する研修会等の開催情報を収集し、都度、各学校に案内した。養護教諭を中心に、健康教育についての研修会へ参加いただいた。 ・インフルエンザシーズンはもちろん感染症情報紙を定期的に配付し、各学校に対し感染予防の指導や感染拡大防止の措置を行った。 	3.5

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
<p>3 社会の変化に対応し、自立する力を育む教育</p>	(1) 確かな学力の定着(学力向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職研修会や学力向上担当者研修会等で学力向上のための指導を継続的に行った。「与論町授業スタンダード」の活用について指導し、意識した授業展開が見られた。 ・「学習者主体の授業」プロジェクトにより、各校が連携した研究公開がなされた。県の「学習者主体の授業」実践校区として、3小1中で研修会を実施し、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に努めるよう指導した。また、那間小学校が大島地区の研究協力校となり、研究授業や授業研究を通して授業改善がなされるよう指導した。 ・国や県の学力調査において例年と比べてスコアが下がっており深刻な結果だと受けて止めている。具体的な取組を挙げながら、管理職研修会等で協議し、各学校での授業改善を進めるよう指導した。 ・小学校SET加配教諭の配置やALTとの契約等により、外国語科・外国語活動の指導充実を図った。 	3.0
	(2) 特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会の開催により、与論町の特別支援教育に「縦の連携」と「横の連携」を生み出す工夫をした。 ・大島特別支援学校の職員を招き、就学相談会やこども園及び各学校の巡回相談を充実させた。 ・特別支援教育の啓発を目的とした町のリーフレットを就学時健康診断で保護者・関係者に配付し意識を高めた。 ・ハレルヤこども園のノア相談室や与論町社会福祉協議会と連携し、発達検査の実施体制を更に充実させることができた。各学校の校内支援委員会の機能を充実させるよう、検査前には各学校で会を設け、対象児童生徒について多くの視点から協議する体制をつくった。 ・12月から各学校に特別支援教育をサポートするソフトを試験導入し、多様な児童生徒に多角的アプローチができる体制が取れるようにした。 ・各機関と連携しながら、保護者のニーズに応じて意見交換の場を設けることができた。今後もよりよい特別支援教育の在り方について模索していきたい。 	4.0
	(3) キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、与論高校でのキャリアパスポート(夢ファイル)の実施、引継ぎを進めている。 ・地域おこし協力隊や海洋教育地域コーディネーターを配置することで各学校のキャリア教育が充実している。 ・中学校では職場体験学習の成果物として、職業図鑑「きばとうる ゆんぬんちゅ」が制作され、地域と連携した取組がなされた。 	4.0
	(4) 郷土・伝統文化教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育が充実してきたことにより、「与論町の魅力を再発見するとともに、与論町の課題に気付き、郷土と自分との関わり方を考える取組」が計画的に進められている。 ・各学校・各園において、ユンヌフトゥバを大切にした教育活動が展開されている。 ・各小・中学校は、運動会や文化祭に向けてエイサー等の練習を積極的に進め、町教委も指導者の派遣等により各学校の取組を支援した。 ・「かごしまジュニア検定」への参加について各学校に働きかけたところ、今年度も2つの小学校が検定に参加した。 	4.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
<p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">社会の変化に対応し、自立する力を育む教育</p>	<p>(5) 海洋教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、町内の全小・中学校が教育課程特例校として「海洋教育科『ゆんぬ学』」を推進した。海洋教育科のねらいを「海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ、与論島の海とくらしの課題について探究することを通して『島だちの力』を身に付ける。」と設定し、地域サポーターの協力により各学校での学びが一層充実した。 ・「第6回ヨロン海洋教育フェア」には300人を超える参加があり、小・中・高校の児童生徒が他校の学習成果を知る機会となった。また、町民の海洋教育に対する理解増進に繋げることができた。 ・地域おこし協力隊や地域コーディネーターの活動により、教育機関、行政機関との連携が非常に充実している。ホームページも作成し、中高生や教員が授業に活用できる工夫も取り入れている。 	4.0
	<p>(6) 幼児教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長研修会を定期的実施し、園長と直接協議しながら、法的、教育的、経営者的な側面から指導と助言をすることができた。 ・「こども園研修会」や「こ小連携研修会」において、年長児でのアプローチカリキュラムと小学1年生のスタートカリキュラムの重要性を繰り返し指導し、小学校の教員が幼児教育を理解する機会となった。 ・指導主事がこども園の5歳児クラス担任と情報共有をしたり、5歳児の保護者の就学相談を積極的に実施するなど、こ小接続に取り組んだ。 	4.0
	<p>(7) 社会の変化に対応した教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想については、機器の配備が進んでいるが、使用の荒さや経年劣化により端末の故障等も目立っている。校務支援システムやAIDリルは、各学校で効果的に活用されている。 ・性的マイノリティへの配慮について地域の理解が進み、与論町相撲大会では、衣服の上から廻しをする男子が多く見られ参加者が増えてきた。 ・学校の働き方改革の視点から、町教委の主催事業や学校への諸調査の在り方について配慮しているが、よりよい学校運営がなされるよう引き続き業務改善を推進していく必要がある。 	3.6

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
4 信頼され、地域とともにある学校づくり	(1) 開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会のホームページにて、各学校での校則等や海洋教育の計画、児童生徒作品の展示情報などを発信した。また、各学校の「学校だより」を町教委が一括して学校ホームページに掲載し、全ての学校の「学校だより」をいつでも誰でも読むことができるようにしている。 ・海洋教育の地域サポーター・地域コーディネーターや部活動指導員、吹奏楽部地域サポーターを各学校に派遣し、「開かれた学校づくり」を推進した。 	3.0
	(2) 学校運営の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職研修会を通じて町教育行政の施策を伝えるとともに、各小・中学校長が目標をもち、各学校の課題に応じた学校運営に取り組むよう指導した。 ・町教委学校訪問を実施し、学校経営に対する助言を行った。 ・指導主事の学校訪問の際には、組織力や指導力の向上の視点からの指導助言を行った。 ・校長会、教頭会からの要望に添う形で、町主催の諸行事や諸会議の在り方の改善に努めた。 ・中学校に教員業務支援員を配置し、教員の事務負担軽減に努めている。 ・各学校の個別の課題に寄り添い、支援や対話を重視しながら学校との伴走に努めている。 	3.6
	(3) 教職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・適時に服務指導を行ったが、教職員の服務規律違反が数件報告され、指導した。トラブルを起こさないための手立てを具体的に示したり協議したりして改善に努めている。 ・各小・中学校の校内研修や経験年次研修などの場で、指導主事が指導や助言を行い教職員の資質の向上に努めた。 ・大島教育事務所の指導主事や県総合教育センターの研究主事を各学校に招聘し、中・長期的な視野での指導をいただいた。 	3.5
	(4) 安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路安全推進会議を開催し、各校の通学路に関する課題を解決すべく、学校、道路管理者、警察、自治公民館代表、保護者代表等の連携を図った。 ・校舎、校庭、教職員住宅の修繕補修を行い、児童生徒、教職員が安心して過ごすことができる環境整備に努めた。 ・スクールガード・リーダーの事業を継続し、登下校時の見守りや校内巡視などの活動を年間26回行った。 ・水難危険区域マップを校外生活指導連絡会で提示したり、与論町通学路交通安全プログラムを町教委ホームページで公開したりするなど、啓発活動に取り組んだ。 	3.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
4 信頼され、地域とともにある学校づくり	(5) 教育環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・那間小学校一時使用校舎は、令和7年度中に完成し授業を開始する予定である。 ・茶花小学校のトイレについて、小便器の入替え、便器の洋式化、排水工事により環境改善に努めた。 ・与論小学校150周年に伴い、床の一部補修、壁の洗浄に取り組んだ。 ・中学校体育館の屋根補修工事に向けた、実施設計業務を実施した。 ・全ての小・中学校で校舎の安全点検を実施させ、危険箇所等については逐一状況を報告させた。 ・老朽化等に伴う校内の危険箇所の修繕を随時実施した。ただし、修繕が追いつかず、年度をまたぐ箇所も数多くある。また、教職員住宅の住環境には常態的に課題がある。 ・那間小学校・茶花小学校については、建築物の状況を鑑み早期の立て替えが必要である。 ・「与論町総括安全衛生員会」「与論町立小・中学校事務支援室共同実施協議会」を通じ、学習環境や労務環境の改善について意見交換を行い対策を講じた。 	2.5
	(6) 特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育「ゆんぬ学」において、学校ごとに活動内容を定めて、地域と連携し取り組んでいる。 ・町として進める「島だちの教育」が、児童生徒にどのような資質・能力を身に付けさせることをねらっているのかを、各学校に具体的に伝え続けていく必要がある。 ・「中学校及び高校の2学級存続」を目指したふるさと留学生事業を継続することができた。今後も必要に応じて制度を見直しながら受け入れ活動の充実を図っていく必要がある。 ・漢検・英検補助金制度の理解が進み、各学校からの数多くの受検があった。 	3.0
	(7) 与論高等学校との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中高乗り入れ授業を進めることができた。また、中高合同の職員会議も開かれ連携を深めている。 ・小・中・高校連動型の海洋教育の実践が一層充実し、「ヨロン海洋教育フェア」での高校の発表が高度化している。また、今年度も高校3年生のアシスタントティーチャーの取組を3小学校が受け入れており、小・高連携もさらに進んでいる。 ・一般的には「県立学校であるために地教委としては協力できないこと」が、与論においては「連携型高校であるために町教委として協力すべきこと」になる場合がある。高校側の要望に耳を傾けながら、よりよい形で連携できるよう検討していく必要がある。 	3.5

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
5 地域全体で子どもを守り育てる環境づくり	(1) 地域ぐるみでの子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各単位子ども会・育成会のそれぞれの特性を活かした活動を実践することができた。全15子ども会が参加し、与論島クリーン大作戦「夏」を6月に、「秋」を11月に、年間2回の清掃活動を実施し島内の海岸やヨロシマラソンコースをきれいに清掃することができた。 ・子ども会育成連絡協議会理事会において、各子ども会の活動内容や計画・課題等を話し合い情報を共有することで、活動の充実を図り活性化に努めた。 ・パナウル少年の船では、自然環境や歴史・文化に直接触れる体験を通して、参加した小中学生の視野を広げることができた。また、与論町の姉妹都市盟約を結んでいる錦江町を訪問し、交流の経緯や現在に至るまでの関係について学習することで、姉妹都市の意義や地域間交流の大切さを理解する機会となった。これらの体験を通じて、ふるさと与論町への理解と誇りを深めるとともに、他地域とのつながりを学ぶ有意義な研修となった。 	4.0
	(2) 家庭及び地域の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・与論町子ども会育成連絡協議会において、「青少年育成の日(第3土曜日)」・「家庭の日(第3日曜日)」・「育児の日(毎月19日)」の周知を行った。 ・子ども会花壇づくり研修会を実施した。13子ども会の参加があり、学んだ知識を活かし年間を通して花壇づくりに取り組むことができた。2月に花壇コンクールを実施し、14子ども会が参加した。 ・「土日の有効活用の基本方針」の啓発について、スポーツ少年団登録説明会や子ども会育成連絡協議会理事会において共通理解に努めた。 	3.5
	(3) 家庭教育支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級合同開講式を行った。各小中学校は、家庭教育学級を開催し家庭教育力及び人権教育の向上に努めた。 ・開校式の際に町民生活課と連携し鹿児島県人権同和对策課の人権研修推進員の先生を招聘し講演会を実施した。講演会のアンケートでは「たくさんの気づきがあった」「多くの人に聞いて欲しい」という意見も多く有意義な時間となった。 ・各学校の自主的な活動内容にも人権同和教育を取り入れている学校が多く、人権教育への意識の高まりを感じた。 	3.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
5 地域全体で子どもを守り育てる環境づくり	(4)「特色ある教育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・町内放送によるユンヌフトゥバの活用をとおして、地域で子どもを守り育てる環境づくりに努めた。 ・与論ことわざカレンダーの活用及び郷土教育資料(町誌やユンヌの歩み等)活用の推進は出来なかった。 ・ユンヌ検定、1月文化財防火訓練を実施した。 ・与論カルタ大会は、各子ども会上学年2チームの参加を可とし、トーナメント戦を実施。子どもたちが楽しみながら学ぶ大会となった。また、中学生が運営をし、高校生ボランティアが指導・補助をすることで小学生にとっての模範となり、中高生の地域の中での役割を再認識することができた。 	4.0
	(5)「土・日の有効活用」の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・各単位子ども会において花壇整備に取り組み、花いっぱい運動を推進した。 ・与論町スポーツ少年団登録説明会及び与論町子ども会育成連絡協議会理事会において、第3土曜日は青少年育成の日、第3日曜日は家庭の日であり、原則その目標にあった活動を中心に行い、その他の趣旨の団体活動は自粛する旨、周知を図った。 	3.0

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
<p>6 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興</p>	<p>(1)生涯学習の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の推進・普及を図るため、学校等の7施設に移動図書館で月1回出向き巡回貸出しを行った。 ・子どもの読書活動を促進するため、1年生図書館招待、1日子ども図書館員、こども園の受入を行った。また、ボランティアグループ『おはなしの木』による読み聞かせを毎週日曜日に行った。 ・親子でいっしょにあしばんDAY(乳幼児への読み聞かせとふれあい遊び)を毎月行い、保健センターと連携したブックスタートで呼びかけをし参加者が増加した。 ・高校生ボランティアにクリスマスおはなし会の運営補助を依頼し、会をスムーズに開催することができた。 ・職員のスキルアップの向上のために、司書教諭・学校図書館司書と合同で「レファレンス」について研修を行った。 ・ボランティアグループ『おはなしの木』が県の優良読書グループに選ばれ、鹿児島県図書館大会にて表彰された。 <p>・施設の老朽化に伴い、令和6年度末にて与論町中央公民館・茶花地区公民館が閉館した。閉館後は、公民館教室の継続実施が行えるよう調整を行い、社会体育施設及び各自治公民館等において活動を行った。</p> <p>・閉館後の中央公民館については、安全面に考慮しながら茶花地区公民館部分において、1階の各研修室を活用し、与論十五夜踊り関連用具置場、青年団関係用具置場、発掘出土品置場として活用し、2階ホール及び舞台については、与論民俗村の収蔵品の一時保管場所としての活用を行った。</p> <p>・城、東区、古里の自治公民館長と青少年センター施設の管理に関して基本協定書(令和7年度から令和11年度)に基づき年度協定を締結し自治公民館活動の推進に努めた。</p> <p>・社会教育関係団体と連携し協力しながら、各種行事等を実施することができた。</p>	<p>3.5</p>

評価項目	評価の観点	成果・課題等	評価
6 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興	(2)生涯スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・町民体育大会や町駅伝大会、大島地区スポーツ大会グラウンド・ゴルフ競技、町相撲大会など各種スポーツ大会を開催することができた。 ・8月に与論町老人クラブ連合会と共催でラジオ体操を開催し、町民の健康寿命の向上に取り組むことができた。 ・スポーツ推進委員連絡協議会の通常定例会や講習会への参加・町イベントの運営協力等、活動の充実に努めた。 ・大島地区スポーツ大会(郡体)・大島地区スポーツ少年団交歓大会や大島地区駅伝大会、やんばる駅伝競走大会に派遣し町民のスポーツ振興を行った。 ・体育施設指定管理委託者のヨロンSCと連携して、町体育協会の各種スポーツ団体やスポーツ少年団の支援協力を行った。 	3.5
	(3)スポーツアイランド構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ合宿への対応やスポーツ選手の受入に取り組むことができた。今後も商工観光課や観光協会、スポーツクラブ等と連携して誘致推進に取り組む必要がある。 	3.0
	(4)文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・与論カルタ大会は、12月に予定していたが島内におけるインフルエンザウイルスの流行を鑑み、日程を2月に変更し開催した。 14こども会16チームが参加し、与論カルタを通じて、自然、歴史、文化、習慣を知るとともに、与論についての知識と郷土愛を育む活動が行えた。 ・芸術・文化に親しむ環境づくりのために、2月に町生涯学習フェア・文化祭・公民館教室発表会を同日開催した。今年度は、喜界町のサンゴ礁文化研究所による創作ダンスが披露された。 	4.0
	(5)文化財の調査・保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・与論城跡が3月10日に国指定を受けた。 ・また、国指定を受けて新たなパンフレット作成や看板作成を実施した。 ・開発事業予定内の近世墓(奉行墓ブジョウ)の取扱いに関する調整と、試掘確認調査を実施した。調査には琉球大学の考古学研究室に支援業務委託を行って実施した。 ・町指定有形民俗文化財(与論民俗村)の現状確認作業を有識者の協力の下に行った。しかしながら、保管環境の改善が依然として必要な状況であったことから、所有者とも相談を行い、閉館した中央公民館の2階大ホールに民具資料の仮保管のための移転作業を行った。 ・2年に1度行われるシニグの祭祀に合わせて島内外の協力者のもと、島内で現在行われているほぼ全シニグの記録調査を行った。 ・与論十五夜踊り保存会へ町補助金による運営補助を行った。 ・商工観光課や観光協会と連携して十五夜踊りの魅力発信のための講演会なども開催した。 	4.0

III 教育行政評価委員意見のまとめ

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
1 教育委員会の活性化の推進	(1) 教育委員会の会議の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・会議日程の定例化により、参加(出席)率も高く資料の事前配布により有意義な会になっていて評価できると思います。 ・事前に資料を配布するなどにより、充実した会議になるよう努力がされている点が評価できる。 ・率直に会議が多いと感じるので、文書回覧で済ませられないか、関連する会議をまとめて開催できないかなど、検討いただけるとありがたいです。一方、会議の委員を「PTA会長」から「PTA代表者」と変更するなど会長の負担軽減に努めていただいている点はとても評価できる。 ・専門的な事項について担当職員から説明を行っている事や、発言しやすい雰囲気づくりに努めている点が評価できる。
	(2) 委員の研修等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会に対する認知を課題に挙げられていること、とても良いと思います。協議会のメンバー自身も、自分がどんな役割なのか、明確になっていなくて戸惑っている方もいたので、改めて協議会を意義有るものにすべく、研修や発信・共有は必要だと思います。
	(3) 委員の活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方に積極的に声掛けをされたこと、委員同士の考えの共有ができたこと、素晴らしいと思います。もう一步踏み込んで、先生方の困りごとや課題まで聞き取れたら、とても有難いです。 ・様々な学校行事等に参加され、子供たちや先生方、保護者の方々とふれあい、現場の課題を吸い上げて共有するなどの活動を熱心にされており、大変評価できる。 ・地域で子供を育てるという意識の醸成に繋がる活動が評価できる。
	(4) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の負担が多いのでは？と感じることがあります。民間の力を借りて業務負担の軽減を図ってみてはどうでしょうか。 ・是非、学生ボランティアの活用を併せて検討していただきたいです。 ・児童発達支援センターの訪問も是非お願いしたいです。 ・会議通知等の封書をやめメールやLINE等を活用し、事務局の事務作業の軽減を進めてほしい。個人的には会議資料のペーパーレス化も進めてほしい。逆に事務局には負担になるかもしれませんが、希望者からだけでも進められるとありがたい。 ・学校側の負担ばかり言われるが地域移行のみでは地域にしわ寄せが行ってしまう。「こどもまんなか」でバランスの取れた解決策を望みます。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	(1) 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各校で子供同士が「考え議論する道徳」の授業の確立が進んでいること、道徳意識の高揚に努められ大変評価できると思います。 ・島の伝統である「誠」の心を培うためにも道徳教育は重要である。引き続き充実した道徳教育にご尽力いただきたい。
	(2) 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校に関しては、時代の流れによって定義や捉え方も変わってきていると思います。非常に大変な業務かと思いますが、委員会だけでなく、教員の皆さん、保護者、地域の大人も含めてアップデートが必要だと感じます。 ・評議委員会等でも、いじめや不登校の生徒に対するきめ細やかな対応をされていることがうかがえ、非常に評価できる。不登校の生徒が増えているようなので、より充実した対策をお願いするとともに、引き続きみんなが安心して登校して学べる場を提供できるようご尽力いただきたい。 ・いじめや不登校などは難しい問題だと思うが、委員が学校や行政と協力し取り組んでいる姿勢が評価できる。
	(3) 人権同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する職員研修の回数や指導が評価できます。是非、内容に関しても職員同士が議論できるような研修であることを期待します。 ・新たな取組の紹介も引き続き行って欲しいです。
	(4) 体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験学習、地域人材やバス送迎の積極的な活用、与論ならではの素晴らしい点だと思います。是非、島外にもアピールしていただきたいと思います。 ・海洋教育「ゆんぬ学」の実施により、児童生徒が主体的に島の魅力や課題を探求しており、大変評価できる。今後とも引き続き注力してほしい。 ・生徒が地域住民ともかかわりを持ち、自らの島を知ることで、生徒だけでなく住民も刺激を受け、シビックプライドの醸成につながっていると実感する。有能な人材が将来Uターンし、島の活性化にかかわってくれる基盤の醸成にもつながっている。 ・故郷を深く理解することは将来必ず役に立つと思うので、今後も活動を充実していただきたい。
	(5) 子ども読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書の皆さんのご尽力、ありがとうございます。一方で、子どもからの評価を聞ける場面が少ないので、是非、子どもと一緒に作り上げるためにも、アンケートなどを実施して欲しいと思います。 ・司書を配置するなど、子供たちの読書環境の充実のために取り組んでいる点が評価できる。 ・活字離れが進む現代だからこそ、子どものうちに読書の機会を増やし行間の読める大人になって欲しいと思うので、今後も充実させて頂きたい。
	(6) 文化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文化活動に関して、事務局の皆さんはじめ教育委員の方も携わってくださり、ありがとうございます。一方で、進行や内容が常態化している気もするので、アップデートを期待します。 ・ヨロン・沖縄音楽交流祭など、交流機会が少ない本町の子供たちにとっては貴重な機会であり、このような交流の機会をできるだけ多く設けていただきたい。 ・十五夜踊りなどの地域の伝統文化に触れる機会を学校教育の中でも引き続き設け充実していただけるとありがたい。生徒が主体的に地域の文化活動や企画に参画できるような仕組みができるとよい。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
2 豊かな心と健康な体を育む	(7) 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消、郷土料理の充実など、食育の観点から地域の方、ふるさと納税の活用がなされていて非常に良いと思います。島外への発信強化をお願いしたいです。 ・給食や授業で地元の食材を活用したり、交流機会を設けており、大変評価できる。今後とも地元食材の活用を進めていただくとともに、授業等でも地元の農家と連携した農業体験や栽培体験などができるとよいと感じた。 ・故郷を深く理解することは将来必ず役に立つと思うので、今後も活動を充実していただきたい。
	(8) 体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域部活動の成果が出ていること、ローカルのモデルケースになれるのではないかと評価しています。 ・「たくましい”かごしまっ子”」育成推進プラン」作成とのこと。次年度は、是非、周知いただきたいです。
	(9) 健康・安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に大切な業務でもあると思います。引き続き、ご尽力よろしくお願いします。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
3 社会の変化に対応し、自立する力を育む教育	(1) 確かな学力の定着(学力向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関して、従来の指導方法では色々な観点から難しくなっており、非常に苦勞されていると拝察します。民間などの外部講師やオンライン指導者の活用なども取り入れるなど、柔軟でスピーディーな指導充実を期待します。 ・本人の夢実現のためにも学力向上は必要と考えるので、指導の充実を期待します。
	(2) 特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に手厚く充実していると評価できます。一方で、特別支援教育に通級するまでではないが、子どもの多様性に合わせた普通学級の運営が大変なケースもあり、(1)の学力低下につながっているケースもあるのではと感じますので、並行して様々な児童に対するケアや研修、議論を進めていただきたいです。 ・特別支援は人員も専門的な知識も求められるところであるが、様々なことに尽力されており、評価できる。今後とも継続して、しっかりとしたサポート体制をお願いしたい。 ・子供達は、よく頑張っていると感じます。
	(3) キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の職業体験の充実、素晴らしいと思います。職業も島内でも多様化している中で、より多くの職業を知ることができるような場づくりを期待します。 ・コーディネーターを配置しゆんぬ学を通じたキャリア教育に尽力されており、大変評価できる。今後とも与論島の魅力をいかした充実したキャリア教育を推進するとともに、島で学ぶ大きな魅力としてふるさと留学生の獲得につなげていただきたい。 ・一方、島の子供たち(特に高校生)が島外に出てオープンキャンパスや企業見学など、外の社会を見て学べる機会をもっと作ることができるようになるとよりよい。 ・今後もキャリア教育の充実に期待します。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
3 社会の変化に対応し、自立する力を育む教育	(4) 郷土・伝統文化教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育が「与論の課題に気づき、郷土と自分の関わり方を考える取組」としての認識ができていて、充実ぶりが伺えます。 ・郷土の伝統文化に触れることは文化の伝承のために重要だと思います。 ・ユンヌフウトウバについても、中学校以降の教育課程でも継続して学ぶ機会を設けていただければと思います。 ・十五夜踊りなどの地域の伝統行事についても、児童生徒が今まで以上に参画できる機会を増やせるとよいと思います。 ・故郷を深く理解することは将来必ず役に立つと思うので、今後も活動を充実していただきたい。
	(5) 海洋教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヨロン海洋教育フェア」の充実度が伺えます。地域サポーターの協力や地域コーディネーター、教育機関、行政との連携が良い成果を生むことに繋がっていると思います。 ・とても充実した実施体制と内容となっており、大変評価できる。全国的な優良事例としてより充実・発展していただけることを期待します。 ・与論高校存続や定住拡大のためにも、ふるさと留学生の受入体制の充実と併せて、さらにPRしていただけるとよいと思います。 ・素晴らしい取り組みだと思うので今後も充実させてほしいです。
	(6) 幼児教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園との連携強化は、とても大切なことだと感じます。引き続き、積極的な関わりをお願いしたいです。 ・こども園と小学校の教員が連携して取り組んでいる点が評価できる。保育士の確保やスキルアップ、やりがいを持って働ける環境の整備に引き続き取り組んでいただくことを期待します。 ・何にでも興味を示し、積極的に挑戦する子供の育成を期待します。
	(7) 社会の変化に対応した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・機械、端末の劣化はやむを得ないと感じますが、お金もかかることなので課題もあると思います。教職員の皆さんと一緒に使用や保管など、建設的な意見交換により、うまく維持できたらいいなと思います。 ・性的マイノリティ配慮により、相撲大会への参加者増、素晴らしいと思います。中学女子もあってもいいのではと思います。 ・GIGAスクール構想については、積極的に進めていただくとともに、ネットリテラシー教育も併せて実施していただきたい。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
4 信頼され、地域とともにある学校づくり	(1) 開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた学校づくり」がどのような目指す目標があるのか分かりませんが、発信数・閲覧数等がデータであると充実度が評価できるので？と感じました。
	(2) 学校運営の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校個別の課題に寄り添い、学校の伴走に努めているとのこと。引き続き、各校の要望や声に耳を傾け、課題解決に努めていただきたいです。 ・各種会議等については必要かどうか検討していただき、統合や省略化できないかなど検討いただけるとありがたい。また、通知文や会議資料などのペーパーレス化等を検討していただきたい。
	(3) 教職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・指導・助言と同時に、その後の改善策、そして、その遂行への見守りも大切だと思います。引き続き、資質向上のために尽力願います。 ・温かく、熱心にご指導いただいている先生が多く感謝しております。違反事例がないよう適切にご指導いただくとともに、先生方がより働きやすく、子供たちの教育に集中できるような環境整備をお願いします。 ・地域や保護者との交流や連携もこれまでどおり取り組んでいただきたい。
	(4) 安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・業務が例年同じようになっていて、アップデートしながら、周知や必要性を感じてもらえるような工夫が必要と感じます。特に、不審者情報や夏場の事故や観光客の運転、キビ刈り時期の危険度は、保護者同士からの共有の方が多く、また、早いのもあるので、全体で迅速な情報共有があると良いと思います。 ・中高生の自転車通学、高校生のバイク通学の安全指導について、引続きお願いします。
	(5) 教育環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教員住宅の住環境は、今後とも早く改善されることを願います。早期にプランを立案してはいかがでしょうか。 ・老朽化している設備も見受けられるので安全に学べる環境を確保いただくとともに、教員住宅の住環境の充実をお願いします。 ・施設の老朽化対策については、中学校図書館の例もあるので、民間資金の活用も含めて早期に対応して頂きたい。
	(6) 特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「島だちの教育」の必要性を具体的にこれからも伝え続けていただきたいです。 ・来年度も与論高校への入学生徒数が少なく、魅力化に関して抜本的な見直しを進める必要があると思います。 ・海洋教育「ゆんぬ学」を積極的に取り組まれており、島の魅力を活かした特色ある学校教育に取り組まれている点が非常に評価できる。 ・住居問題など様々な課題があると思われそうですが、他の部署とも連携し、ふるさと留学生の受入体制の整備充実とより積極的なPR等に取り組んでいただくことを期待します。 ・ふるさと留学については、小中高全体の課題として、移住政策と絡めて検討した方が良いのではないのでしょうか。
	(7) 与論高等学校との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・上記にも書きましたが「連携型高校であるために町教委として協力すべきこと」になる場合を前向きに捉え、子どもがこの島での教育を受けて良かったと思える学校教育魅力化に引き続き努めていただきたいです。 ・中高一貫教育としての強みを生かし、より魅力的な教育体制が実現できるようご尽力いただきたい。 ・制度的な問題などあるかもしれませんが、学校給食の提供も町一体でできるとうれしいです。 ・今後一層の充実を期待します。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
5 地域全体で子どもを守り育てる環境づくり	(1) 地域ぐるみでの子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各単位の子ども会、育成会がそれぞれの特性を生かした活動を実践したことに評価できます。具体的にどのような特性を活かした活動だったのか、全体で共有できていれば、より素晴らしいと思います。 ・パナウル少年の船の報告会も、海洋教育フェアで行ったら、より参加したいと思う子どもが増えると思います。 ・地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりは、子育てするうえでは重要な点であり、評価できる。今後も継続して取り組んでいただきたい。一方で、各子ども会の意見も踏まえつつ全町的な行事の必要性の再検討と各集落単位のコミュニティーの主体的な活動を促すことを期待したい。
	(2) 家庭及び地域の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの「青少年育成の日」などの過ごし方の具体例を、基本方針とともに実践できるように挙げるなど工夫してみてもいいでしょうか。 ・これまでの集落などにとらわれない枠組みでの活動の検討や実施団体等との連携協力も必要になると感じる。子ども会活動や各集落単位のコミュニティーの主体的な活動を促すことを期待したい。 ・花壇コンクールは開催時期を見直してもいいのではないかな。
	(3) 家庭教育支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の活動を全校で周知できると、お互いに刺激になったり参考になり、更に充実度が増すと思います。 ・役員等の負担軽減と参加者が気軽に参加できる体制づくりのために、オンラインとのハイブリット開催をお願いしたい。
	(4) 「特色ある教育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ユンヌフトゥバの普及、町内放送やカルタ大会、授業に取り入れるなど素晴らしいと感じます。 ・ことわざカレンダーは、こども園で耳にしていると思うので、小中高と引き続き継続して暗唱できる環境づくりを整備してはどうでしょうか。 ・海洋教育「ゆんぬ学」を積極的に推進しており、大変評価できる。今後ともより充実させていただきたい。
	(5) 「土・日の有効活用」の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・土・日の有効活用は、実際のところうまく方針どおりに実行できているのでしょうか。必要と感じられているのか含めて、アンケートや調査を行うことも良いのではと感じます。

重点施策	評価の観点	成果・課題等について評価委員の意見
<p>6</p> <p>生涯スポーツ文化の学振興環境づくりと</p>	(1) 生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> 中央公民館閉館に伴い、茶花校区は親子全員での交流できる屋内施設が限られ苦慮しているため、他校区の公民館を気軽に借りられるようなシステムや屋根付きの屋外施設のメンテナンスをお願いしたいところです。 これまで様々な取り組みを実施しており評価できる。加えて社会人等のリカレント教育、リスクリング教育の機会創出についても、他の部署や機関・団体等も連携して取り組んでいただきたい。 生涯学習の拠点としての中央公民館の再整備を検討して頂きたい。
	(2) 生涯スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> 事務局の方々の業務負担を心配するほど、スポーツの推進は非常に充実していると思います。 学生ボランティアや島外からでもボランティアを募ってもいいのでは、とも感じます。 各種行事の開催に取り組んでおられ、継続して取り組んでいただきたいと思います。
	(3) スポーツアイランド構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> 様々なスポーツ選手や団体が来島して下さり、経験・体験できることは大変ありがたいと感じていますが、マンパワーが足りない気がしており課題と感じますが現状いかがでしょうか。 各部署等との連携を図りながら、今後の方針の検討を進めていただきたい。
	(4) 文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 文化・芸術活動の充実は近年とても評価できると思います。引き続き、多様なジャンルの文化・芸術の推進を図っていただきたいです。 様々な文化芸術に触れる機会を創っており感謝します。来場者の利便性や職員や関係者の負担軽減を図るとともにより充実したイベントとなるよう、他部署や民間団体等のイベントと連携するなど検討していただきたい。
	(5) 文化財の調査・保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> 非常に評価できます。これからも島の財産を守るための活動に補助や発信を充実させて欲しいです。また、子どもたちをどんどん関わらせて欲しいと思います。 与論城跡の国指定など大きな成果を上げており、大変評価できる。発掘調査等を引き続き尽力いただくとともに、保全・管理体制の検討、観光部署等と連携した有効活用などにも引き続き取り組んでいただくことを期待します。 無形文化財のリスト化や保存(映像や写真記録等)、継承等にも取り組んでいただけるとなおよい。